

第5回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会 議事録

■日 時 令和4年(2022年)1月12日(水) 10:00~11:30

■場 所 横須賀市役所3階301会議室

■出席者 (敬称略)

委員長	小林 宏 己 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)
職務代理者	梨 本 加 菜 (鎌倉女子大学児童学部 教授) *リモート出席
構成員	妹 尾 昌 俊 (教育研究家、合同会社ライフ&ワーク 代表)
	渡 辺 孝 夫 (社会教育委員)
	櫻 井 聡 (横須賀市PTA協議会 会長)
	梅 谷 尚 子 (小学校校長会 代表)
	小 番 奈緒美 (中学校校長会 代表)
	伊 藤 学 (横須賀総合高等学校 校長)
	松 浦 大 翼 (三浦半島地区教職員組合 副委員長)
	小野寺 恵 恵子 (公募市民)
	岡 本 純 子 (公募市民)

教育委員会事務局	佐々木 暢 行 (教育総務部 部長)
	米 持 正 伸 (学校教育部 部長)
	高 橋 直 人 (生涯学習課 課長)
	川 上 誠 (教育指導課 課長)
	富 澤 真由美 (支援教育課 課長)
	阿 部 優 子 (教育研究所 所長)
	古 谷 久 乃 (教育政策課 課長)
	小 甲 諭 (教育政策課 課長補佐)
	内 田 貴 雄 (教育政策課 主査指導主事)
	伊 藤 颯之介 (教育政策課 担当者)

■傍聴人 2名

■議 題

議題1	前回会議後の経過について
議題2	パブリック・コメント手続の結果について
議題3	計画案について
議題4	今後のスケジュールについて

- 資料
- 資料1 前回国議後の経過
 - 資料2 前回の計画素案に対する検討委員会及び教育委員の意見と事務局の考え方
 - 資料3 パブリック・コメント手続の結果
 - 資料4 横須賀市教育振興基本計画（案）
 - 資料5 今後のスケジュール
 - 参考資料 議事録（第4回検討委員会）

- その他
- 梨本委員リモート出席への対応については、一部を映像と音声の送受信により相手の状態を相互に確認しながら通話をすることができるシステムを利用する方法により行い、会議の冒頭において、事務局が委員間で映像と音声が入り代わりを伝わることを確認するとともに、映像と音声により委員本人の確認をした。

■発言内容

（教育総務部・佐々木部長）

ただいまから、第5回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を開会いたします。

これまで、本委員会はリモートで開催してきましたが、本日は初めて、対面での会議となります。なお、梨本委員はリモートでのご参加となり、また、11時で退席される旨ご連絡をいただいておりますので、あらかじめご了承ください。

それでは、会議の進行を小林委員長をお願いいたします。

（小林委員長）

本日は、次第に記載のとおり、「議題1 前回国議後の経過について」「議題2 パブリック・コメント手続の結果について」「議題3 計画案について」「議題4 今後のスケジュールについて」の4つを議題とします。

議題1 前回国議後の経過について

（小林委員長）

前回国議では、横須賀の目指す教育の姿について「あなたが好き」を最初に持ってくることをはじめ、計画素案に対し皆さまからご意見をいただきましたが、その後の経過について事務局から説明をお願いします。

（教育政策課・古谷課長）

資料1をご覧ください。委員長からも触れていただきましたが、10月20日の前回国議

では、特に、横須賀の目指す教育の姿において、「あなたが好き」を最初に持ってくることなどについて、ご意見をいただきました。

最終的には、小林委員長に「OECD Education2030」も引用しながらまとめていただきましたが、このような議論の経過を目指す教育の姿に取り入れることについて、検討を重ねてきました。

資料4・計画案の4ページをお開きください。これまで、「補足説明」としていた部分を「横須賀の目指す教育の姿の策定に当たって」というタイトルとし、中段「また、」からの部分に前回会議での議論の部分を加えていますので、読み上げます。

「あなたが好き」という言葉を最初に置いています、「私が好き」を先に置くべきではないか、という議論もありました。学校教育では、「一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められ」ています（学習指導要領前文）。そのことを踏まえて、児童生徒の発達過程を考えたときには、まず、個の自立があり、次に他者への理解が生まれるのではないかという意見がありました。ただ、同時に、個の自立は、周囲や社会の人たちとの関わりの中で育まれるものであり、「私」と「あなた」は常に表裏一体であるといえます。社会が大きく変化する中、私たち一人一人の幸せや、自立や育ちというものが、協働の中でしか成り立たない状況であることを踏まえ、「私」を尊重するとともに、他者との関わりを大事にし、市民みんながつながり合うという共通認識のもと、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」としています。

以上です。この部分は、はじめは学習指導要領の引用がない形で作っていましたが、梅谷委員をはじめ、「私が好き」を最初にすべき、という議論が真剣にされたということ、根拠も示してしっかり述べるのが、多くの教育関係者が手に取る教育振興基本計画として大事ではないか、という考えで引用することとしました。小林委員長ともご相談してこの文章とし、左側の「目指す教育の姿」と見開きで目に入る、この形で残すことといたしました。

そのほかにいただいたご意見と事務局の考え方については資料2にまとめていますので、後ほどご参照ください。

修正した計画素案は、教育委員会11月定例会及び市議会12月定例議会で報告し、12月10日から1月6日までの間、パブリック・コメント手続による意見募集を行いました。

また、並行して、社会教育委員や学校関係者に対し、計画素案の説明を行いました。前回会議後の経過の報告は以上となります。

（伊藤委員）

これまでの議論の経緯は大事なことなので、いかに伝えていくかということが、今後の私たちの大事な使命だと思います。こういったことを丁寧に伝えようとしている姿勢は大事ですし、内容も素晴らしいと思います。

(渡辺委員)

校長会等に計画素案を報告したということでしたが、どのような反応がありましたか。

(教育政策課・古谷課長)

小学校校長会、中学校校長会に素案をお示ししながらご説明しましたが、特段ご意見はありませんでした。

教職員組合にも代表の方にお話をさせていただきました。松浦委員からもご報告いただいていたかもしれませんが、理念の部分についても非常に共感できるということで、特段意見はありませんでした。

(渡辺委員)

社会教育委員会議もそのような感じでした。ありがとうございます。

(梅谷委員)

意見を随分反映してくださったと思っています。先ほど伊藤委員がおっしゃっていたように、学校として大事にするところを私がどのように先生たちに伝え、子どもたちの日々の教育に生かしていくかということを考えていきたいと思いました。ありがたく思います。

(小野寺委員)

「横須賀の目指す教育の姿の策定に当たって」というページは元々なかったものですが、これまでの議論を伝えられる部分ができて良かったと思います。

(小林委員長)

「横須賀の目指す教育の姿の策定に当たって」のページは、「好き」という言葉に込めた思いや、この言葉を使うに当たってはいろいろな立場の方の思いを共感し、大切にしているという前提を説明しています。そしてその中で、多様な意見を忌憚なく出し合い、尊重し合ったという経過を書いています。このページの存在自体、非常に意味があると思っています。

最後には「他者との関わりを大事にし、市民みんながつながり合うという共通認識」という部分に結び付けていくわけですが、今、世界中で分断や二極化、貧富の差など、いろいろと厳しい状況が指摘されています。そういう状況があるからこそ、これは「協働」という言葉になりますが、みんなでつながり合って共感し合いながら、大事に高め合っていく、支え合っていくという精神がしっかりと書き込まれた表現になっていると私も判断いたしました。委員の皆さまからも賛意をいただきまして、安心しています。

(妹尾委員)

「横須賀の目指す教育の姿の策定に当たって」に書いていただいたことはありがたく、

他者理解や自立・自律などのキーワードは、いずれも大事だと思います。

ただ一方で、こういったキーワード、大きな言葉はマジックワードといいますが、誰も反対はしないのですが、個々の具体的な場面になるといつの間にか忘れられがちです。

多義的であるが故に、具体的なシーンで十分尊重されない部分がありますので、単なるお題目とせず、各学校でどうしていくのか、社会教育の場面ではどうしていくのかということを含めて、私たちがしっかり具現化できるようにしていきたいという感想を持っています。引き続き、よろしくお願いいたします。

議題2 パブリック・コメント手続の結果について

(教育政策課・小甲課長補佐)

資料3をご覧ください。パブリック・コメント手続による意見募集は12月10日から1月6日までの間行い、2人の方から2件のご意見をいただきました。

なお、計画素案のうち、パブリック・コメント手続では「横須賀の目指す教育の姿」と「基本的な方針」で構成する基本計画の部分が意見募集の対象となり、柱、施策、事業、目標指標で構成する実施計画の部分は意見募集の対象外となっています。意見の提出方法と内容の内訳は、表に記載のとおりです。

2ページをお開きください。1番は、「横須賀市の教育全体を眺めると、読書の位置付けが小さいと感じている。読書をもっと「大きな柱」にすることを掲げられないか。」というご意見です。

こちらについてですが、子どもの読書活動の推進については、柱1「確かな学力」及び柱14「図書館・博物館・美術館における豊かな学びの推進」に施策を位置付け、学校教育・社会教育の両面から推進を図り、また、教育振興基本計画に基づく個別計画「横須賀市子ども読書活動推進計画」を定め、本市における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえた施策を推進することとしています。

読書の果たす役割は大きいと考えていますが、本市の教育全体を捉えた計画の柱は上記のとおりとし、読書活動については、個別計画である「横須賀市子ども読書活動推進計画」に基づき、具体の施策を推進していくことが適していると考えています。

2番は、小中学校における読書活動の推進についてのご意見です。

こちらについては、学校図書館機能の充実は事業11「子ども読書活動の推進」に取り組みを位置付けており、今後事業を進めるに当たっての貴重なご意見として承ります。

いただいたご意見は以上です。計画案について、内容の変更はせず、教育委員会定例会に議案として提出したいと考えています。

議題3 計画案について

(教育政策課・小甲課長補佐)

資料4をご用意ください。内容はパブリック・コメントで示したのものから変更ありませんが、レイアウトやフォントを変更し、また、計画素案にはなかった参考資料を掲載していますので、ご説明します。

まず、表紙をご覧ください。表紙には、田村健さんに制作していただいた「輝け横須賀 Children!」を掲載しています。制作者のご紹介をしますので、冊子の裏表紙をお開きください。

表紙絵《輝け横須賀 Children!》を制作した田村健さんは、現在一般企業に勤務しながら障害者アーティストを支援する団体に所属し、イラストレーターとして活躍されています。幼少期に発達障害の一種である自閉症スペクトラムの診断を受けた田村さんは、次第に学校へ通うことが難しくなり、横須賀市内の支援教室（相談教室）で多くの時間を過ごすようになりました。その中で、自らの個性である絵を描くことに向き合い、才能を着実に開花させてきました。

馬堀海岸を舞台にしたこの作品には、横須賀になじみの深いスポーツや遊びが取り入れられており、恵まれた自然や環境に守られながらすくすくと育ってほしい、夢や希望、未来が空に向かって高く舞い上がってほしい、というメッセージが込められています。

空に舞い上がる夢と希望を気球で表現し、カラフルな気球の色は、横須賀の子どもたち一人一人の異なった性格や個性が表現されています。また、さまざまなハンディや苦しみを背負った人々が、少しでも生きることに不安を感じず、自分らしく日々を過ごせる、そんなまちになってほしい、という希望も込められています。このように、横須賀の目指す教育の姿にまさにぴったりな、この《輝け横須賀 Children!》を、表紙絵としています。

続いて、冊子の中身に入ります。1ページをお開きください。計画の位置付けを示す図の中で、教育振興基本計画に基づく個別計画を列挙していますが、教育振興基本計画とのつながりをイメージしやすくするため、これら個別計画の概要を掲載することとしました。

13 ページをお開きください。ここは、「柱1 確かな学力」に関する施策や事業を掲載している部分ですが、関連する個別計画である「横須賀市学力向上推進プラン」や「指導の目標と重点」について、概要を掲載しています。ほかにも「横須賀市支援教育推進プラン」等の個別計画について、関連の深い施策のページで、概要を載せています。

16 ページをお開きください。本市唯一の市立高校である、横須賀総合高校について、紹介しています。

28 ページをお開きください。「横須賀市いじめ等の対策に関する条例」及び「横須賀市自殺対策計画」の概要を記載しています。いずれも教育振興基本計画に基づく個別計画ではありませんが、前回会議でも、自殺などに関する内容について、文言として触れる必要性をご指摘いただきましたので、教育の分野においての基本的な考え方として、この「柱3 豊かな心」の部分で掲載しています。

71 ページをお開きください。資料編として、計画の策定経過、72 ページにパブリック・コメント手続の結果（概要）、73 ページに計画の検討体制、75 ページに関係法令、76 ページからは用語解説、84 ページ以降に事業一覧を、索引用も兼ねて掲載しています。

レイアウトの変更や参考資料の掲載については以上です。計画決定後、さらに施策をイメージしやすい写真なども加え、市民に公開する計画として完成させたいと考えています。

議題4 今後のスケジュールについて

（教育政策課・小甲課長補佐）

資料5をご覧ください。本日の会議の後、教育委員会1月定例会で本日と同様の報告を行うとともに、目指す教育の姿、基本的な方針の部分教育大綱とすることについて市長と協議することを決定します。

同じ日に開催される総合教育会議において、教育大綱の策定について市長と教育委員会で協議し、市長が「横須賀市教育大綱」を策定します。

教育振興基本計画は、教育委員会2月定例会で議決をいただく予定です。同時に、パブリック・コメント手続の結果を、市民に公表します。

決定した計画、パブリック・コメント手続の結果は、市議会3月定例議会教育福祉常任委員会で報告いたします。

以上が、議題2から4までの報告となります。

（小林委員長）

パブリック・コメントの数が2件ということですが、数としては少ない方でしょうか。

（教育政策課・小甲課長補佐）

少ない方です。100件以上のものであれば、意見等がないということもありますが、2件は、少ない方です。

（小林委員長）

前回の教育振興基本計画策定のパブリック・コメントと比べても変わりありませんか。

（教育政策課・小甲課長補佐）

前回の方が多いです。

※ 前回の教育振興基本計画策定についてのパブリック・コメント（平成22年度に実施）は、29件（8人）。会議後に確認

(小林委員長)

少なくとも異議等がなかったということは、それなりにここまで練ってきたということだと解釈したいと思います。異議等があればまた考えなければいけないと思いますが、大きな問題点は指摘されなかったということだと思います。

(妹尾委員)

計画案は結構ボリュームがありますし、最初の方は理念的で具体的な内容ではないので、一般の市民の方や教育関係者の方には読むだけでそれなりにエネルギーを使うと思います。

フォーラムのようなものがあって、もう少しかいつまんで説明し、その後で「よかったらご意見をください。」というプロセスであればもっと意見も出たと思いますが、今回はスケジューリング的なことや労力的にもそこまでできなかったということだと思います。

広報やコミュニケーションの仕方によって意見の質や量は変わってくると思います。市役所や教育委員会からすると、「ホームページにアップしているから関心のある人は見られています。」と思いがちですが、今は大量の情報が消費されていて、なかなか目に留まらないというか、見てくれることも難しい世の中です。計画の活かし方や周知を検討される際は、コミュニケーションの仕方ということについて、皆さんで知恵を出していく必要があるだろうと思いました。

(小林委員長)

フォーラムを計画策定の前後に行うと、非常に効果的かもしれません。

(櫻井委員)

PTAでは、他の会議でも読書、図書に関してパブリック・コメントで提出されたような声をよくいただきます。

特に中学校の図書館に関してはさまざまなご意見をいただきます。今回、基本計画案に変更はないということですが、今後、深く考えていくところかなと思います。

意見の数は、正直なところ少ないと思いました。教育に対する関心が低いのかと思ってしまいましたので、妹尾委員のおっしゃるとおり、昨年行ったワールドカフェ方式のフォーラムをいろいろな年代層で繰り返し行っていくことで、関心を高めていけるのかなと思いました。

(岡本委員)

以前、市の他の計画でパブリック・コメントによる意見を提出したことがありますが、そのときもすごいボリュームで、かなりの時間集中しないと難しかった記憶があります。

今回、知り合いにパブリック・コメントのことを紹介しても「すごいボリュームだね。」と言われまして、なかなか難しいのかなと感じました。

(小林委員長)

各委員から、パブリック・コメントにかけるときの資料提示の仕方やボリュームの問題などご意見をいただきました。今後生かしていくための貴重な意見として記憶にとどめておくことが大切だと思います。

(梨本委員)

概要版を作ると良いと思います。それを市民の方に読んでいただくことで、広がっていくと思います。

また、実施計画は前期、後期に分かれますので、計画の見直し図る際、市民の方のご意見をいただくような場を作れば良いと思います。

(教育政策課・小甲課長補佐)

教育フォーラムについては、来年度もう一度開催し、計画を一方的にお知らせするのではなく、例えば検討委員会で議論になったポイントについていろいろな年代の方にあらためて議論していただいたり、計画を具現化していくにはどうすれば良いか意見をいただいたりするというのも、計画しています。

検討の振り返り

(小林委員長)

本日の会議をもちまして、この検討委員会での検討は最後になります。第1回会議から1年間検討を重ねてきたわけですが、これまでの検討を振り返っていただき、感想や今後に向けての期待など、お一人ずつお話いただければと思います。

(梨本委員)

この会議を通して、皆さんのすごく活発な意見をいただきました。今日はリモート参加となり、皆さんに直接お目にかかれず残念です。

私は社会教育委員として横須賀市と関わってきていますが、市民が生涯を通じて学んでいけるような、幅広く、ビジョンを示す計画ができたのではないかと考えています。

博物館、図書館、美術館がありますし、今後もさまざまな場で生涯にわたった学びを支援するという姿が実現されることを願っています。今後もお手伝いできれば良いなと思っています。どうもありがとうございました。

(小野寺委員)

私は、広報を見て委員に応募しました。小学校3年生と1年生の子どもがいるのですが、次期計画の期間である8年後は下の子もまだ中学校2年生で学校生活真っ只中にあり、他人事ではないと思って参加させていただきました。

時代が変わり、入試が変わり、親は教育に対して不安が多いのですが、この計画に関わることで、学校の先生が子どもたちに愛情を持たれているということ、身をもって感じました。横須賀市に対して、教育に対して、少し安心というか、ほっとしたところがあります。

またこういう機会があれば参加したいと思いますし、次の新しい10年、未来も、子どもたちと一緒に学び続けていく社会になっていると思います。

子どもには、世の中の流れに巻き込まれず、自分の足で進んでいけるようになってもらいたいと思っています。計画ができて、実行されて、学校教育現場で反映されることを願っています。どうもありがとうございました。

(岡本委員)

この度は、委員会に参加させていただきありがとうございます。

皆さんのお話には、時には講義を受けているような気持ちになりました。小野寺さんのご意見は、今まさにお子さまと一緒にこの時代を過ごしているお母さまの目線でした。

私の意見はあまり貢献できないというか、時代錯誤なのではないかなと思い、一度教育委員会の方にもつぶやいたことがありましたが、「いや、大丈夫です。市民の意見としてどんどんおっしゃってください。」と背中を押していただいたので、思うところをお話しさせていっていただきました。

うちは下の子が成人式を終えました。教育に関していろいろと話を聞いてくれたり、意見を言ってくれたりする子ですけれども、私も「もう子どもに依存してはいけない。」と思い、委員に応募しました。また、今回のことがきっかけとなり、勤労学生として学校に行くことにしました。

今後の期待ですが、私が描く学校は、集いの場です。子どもは5時まで空いている教室で学びたい人は学び、好きなことをし、休み時間には大人と関わり、放課後もおじいちゃんにこま回しを教わったりする。先生方も、そういう社会で市民の方と交わる。学校が、そんな集いの場になれば良いな、と私は期待します。そういう横須賀で暮らしていきたいと思っています。ありがとうございました。

(渡辺委員)

新しい計画がこのような形になりつつあるということで、小林委員長をはじめ、委員の皆様さま本当にお疲れさまでした。特に、事務局の方が本当に苦労されたということがうかがい知れます。ご苦労さまでした。そしてありがとうございました。

今回の計画は、前回までの計画とは大きく変わったような気がします。学校教育に重点を置いた子どもの成長のための計画から、多くの委員の皆様も賛成の声があった、生涯にわたる教育に軸足が少し向いたような気がします。

現状と課題や指標の部分において、私は社会教育的な見方から意見を述べました。その多くは受け入れてもらえませんでした。こんな意見があったということ記録に残してもらえるとこの限りでは、無駄ではなかったと思っています。

特に社会教育の分野では、全国的に施設や事務の所管が教育委員会から市長部局へ移管されるという中で、学ぶことの保障や学習する権利といったことを計画の中に垣間見ることができたことは、うれしく思っています。

これからの子どもや、先日の成人式を迎え大人の仲間入りをした若い人たちを含めて、自分たちの暮らす所に誇りを持てるようになれば良いと思います。

(松浦委員)

私は現場の教職員として、教職員組合の副委員長として、そして横須賀で子どもを育てる親という3つの観点からこの会議に参加し、意見を出させていただきましたが、コロナ禍で休校となり、学校現場がかなりフォーカスされ、世間が学校の在り方にすごく興味を持ち、目を向けてくれた時期だったと思っています。その時期にこの基本計画の策定検討委員会に関わることできて、とても勉強になりました。

現場では今、GIGAスクール構想がどんどん推進され、1人1台端末が入ってきて、子どもたちは非常にうれしそうに活動しています。

最近ではデジタル教科書も全小学校に配置されるようなニュースも入っており、目まぐるしく変わっていく学校現場に対応するため、現場の教職員は四苦八苦している状況です。

基本計画が策定されますが、作って終わりではなく、柔軟な見直しを今後続けていく必要があると思っています。職員の業務の見直しや人手不足といった現場の課題も山積していますが、横須賀市としては、児童数がどんどん減少していくという社会的な課題もあると思っています。

この教育振興基本計画を机上の空論にせず、具体的な施策に生かしていただければと思います。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

(小番委員)

私は中学校校長会の立場で参加させていただきました。日程的に参加できないことも多かったですが、さまざまな立場の先生方、保護者の皆さまからいろいろな意見をお聞きする中で、皆さん本当に教育に対して真摯に考えているということを感じ、自分もこんなことではいけないな、と思いました。

委員会では、目指す教育の姿に関する議論が非常に長く行われました。言葉だけではなく、言葉の裏にあるものをどう伝えていくかということが、今後私たちに問われていると思います。

計画の中身に関しては、はっきり言って私もまだわかっていない部分もありますので、この理念を具現化するに当たり、「この部分はもっとこうした方が良いのではないか」など、我々の使命としてきちんと取り組んでいかなければいけないと思いました。

「教えから学びへ」という部分はまだ浸透していないと感じており、2030年に向けて、きちんと考えていかなければいけないと思っています。

そして、土台となる安心、信頼という部分においては、子どもが生き生きする、ワクワクする学校づくりということに励んでいきたいと思っています。

計画を作ったから終わりということではなく、これがスタートだと思います。私もこの委員会に参加していましたので、「この部分はこういう意味で出来上がったんだよ。」と伝えていくということを、これから頑張っていきたいと思います。この会に参加させていただきまして、ありがとうございました。

(梅谷委員)

最後の方では意見を随分取り上げていただき、ありがとうございました。また、この会に参加し、私もいろいろな意味で勉強をさせていただきました。

私は、キャッチフレーズに関して、「皆が語れるように」ということを最初に述べましたが、言葉には奥行きというものがあって、その奥行きの部分を私たちがどう伝えていくかということが、とても大事だと思っています。

計画を立てるときはワクワクするものですが、ここに書いてあるさまざまな具体的な施策を、私たちは現場でうまく活用しながらしっかりと具現化するというところに努めていきたいと思っています。そして、私は理念という言葉が好きなので、理念に対してぶれることなく、学校教育にまい進していきたいと思っています。

先ほど松浦委員もおっしゃっていましたが、学校教育がすごく変わっていく中で、私も、「明治維新の頃に生きていた人はこんな気持ちだったのかな。」と思うことがあります。GIGAスクールが導入されて、分からない言葉、分からない世界の中を日々生きていてそういうことを感じていますが、やはり大事なものは脈々と引き継いでいかなければいけないと感じています。

本当に良い勉強の機会を与えていただきまして、どうもありがとうございました。

(伊藤委員)

皆さんの議論の中でのこの教育振興基本計画、素晴らしいものができたのではないかと思います。

5回目にして初めて対面で会議です。これまでずっとオンラインで会議を重ねてきたわけですが、こういったことも、私にとって初めての経験でした。数年前ですらこのような現状が訪れるとは想定していませんでしたので、時代はどんどん移り変わっていくのだなと思います。この教育振興基本計画も、今の時点ではこれがベストだと思いますが、時代の変遷とともに、また形を変えていく必要があるのかな、と感じています。

この会議は、私としてはとても居心地が良いと言ったら申し訳ないですが、温かい雰囲気の中で、私自身も大変尊重していただいたという実感も持っています。これもひとえに小林委員長のお人柄とご配慮、それから事務局の並々ならぬご尽力があつてのことだと思います。

この計画には私たちの思いが込められていると思いますので、まずは私たち自身がこの教育振興基本計画を熟知し、このキャッチフレーズの中にもありますが、これを好きになって、人にどうやって伝えていくかということを考えていかなければいけないと思います。

特に、私は唯一の市立高校を校長として運営していくわけですが、施策の中にも特化し

たものを入れていただいていますので、まずは私の責任において、本校の教職員にこの内容を十分に理解させながら、この計画に沿った、魅力ある横須賀市立高校を運営していかなければいけないと、責任を新たに、肝に銘じているところです。

先ほど事務局から、令和4年度にまた教育フォーラムを開催するという話もいただきまして、大変心強く感じています。それらを含めて、私たちがしっかりと伝えていかなければいけないと感じています。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

(櫻井委員)

この委員会には子どもを持つ保護者の代表として参加し、子どもたちが自分に自信を持って、他人を尊重して、横須賀が好きと思ってくれるような基本計画になれば良いと願って、意見させていただきました。このように素晴らしい教育振興基本計画ができたことを、うれしく思っています。

特に印象深かったのは、5月23日の教育フォーラムに参加させていただいた時のことです。各世代が各テーブルで教育のあるべき姿を話し合い、横須賀市の現状や目指す姿といったものが見えてきたという印象があります。中には、「多様性という言葉でくくられてほしくない。」という学生からの意見があったり、不登校で悩みながらも心の声を振り絞って話してくれた学生もいたりしました。それを見たときに、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」というスローガンがすごくすっきり、願いに近いイメージで結びつきました。

この委員会で「あなたが好き」を最初に持ってくるか、「私を好き」を最初にするかという議論があったとき、僕自身すっきりしないというか、そのことがずっと心にとげのように残っていたのですが、それも、去年の11月、神奈川県PTA協議会で慶応義塾大学の前野先生の講演をお聞きしたとき、すっきりしました。

その先生は「幸福学」というものを研究されているのですが、先生は、「利己的に生きる人間より、利他的に生きる人間の方が幸せである。」「科学的に、オキシトシンやセロトニンという幸福ホルモンの分泌は、利他的に生きる人の方が多く分泌される。つまり幸せになれる。」という話をされました。この話を聞いたとき、「あなたが好き」「私が好き」という中身が自分の中ですごくしっくりきました。利他的に生きるということがあり、その後に自分が好きになれる、横須賀が好きになれるということで、私自身すごくすっきりしました。

それとともに、教育の先にあるものは幸福なのではないかと思いました。この計画がスタートして4年、8年という区切りがあると思いますが、そのときに子どもも大人も、幸福度が上がっているということを強く願っています。

最後に、多くの意見に対して真摯に対応していただいた事務局の皆さん、ありがとうございました。また、小林委員長、本当にお人柄に惚れました。素晴らしい委員会になったと思っています。委員の皆さんの意見も、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

(妹尾委員)

皆さんがおっしゃったように、良いチームでできたのではないかと思いますし、いろいろな方の思いが詰まった計画になったと思っています。

今後に向けてということで、3つほど私から提案というか、お話をさせていただこうと思います。

1点目は、この計画を読まれる方や活用される教育委員会などいろいろな方に向けてなのですが、計画案にはさまざまなグラフやデータが載せてあり、すごく分かりやすくなったと思います。

ただ一方で、こういったデータに表れないことや、データの背景にあるものをしっかり考えていくということが、私も含めて、関係者には必要なことではないかなと思います。

一例を挙げますと、30ページに特別支援学級の在籍児童生徒数・学級数が載っています。全国的な傾向と似ていて、ここ数年すごく増えています。これもいろいろな背景があると思いますし、私より専門の方もたくさんいらっしゃいますが、本当は支援を受けたいけれども受けられない子や、いわゆるグレーゾーンと言われる子もいるので、このデータだけでは事実の一端しか分からないということがあります。そういうことも考えていかなければいけません。

33ページには不登校児童生徒の出現率というものがあり、これも全国的な傾向と似ていますが、横須賀は少し高めです。不登校が直ちに悪いということ言うつもりは全然ないのですが、減少はしていないということは分かります。これも、なぜ減少していないのかということについて、おそらく学校の先生方は不登校の子どもたちのケアや声かけなど、いろいろなことをしていただいていると思いますが、ひょっとすると、今までのやり方だけでは十分ではない部分があるかもしれない、あるいは学校や支援センターの頑張りだけでは限界があるのかもしれないなど、こういったグラフを見ても、考えないといけないことがたくさん出てくると思います。

しかも、所管の課だけが考えたのでは限界があるということも、きっとあります。複数の部局や、場合によっては教育委員会を飛び越えて福祉部局と連携するなど、そういったことも必要になってきます。

ですので、データには表れないことや背景を見て、今後の施策や事業の充実をぜひ考えていただきたいということが、1点目の提案というか、お願いの事項です。

2点目は、これは横須賀に限らないことで、文科省もいろいろな自治体もそうかもしれませんが、私自身への反省の意味も込めて申し上げますと、この頃、つつい個人のせいにし過ぎていないかということが、すごく気になっています。

教育関係者が好きな「資質・能力」という言葉、これは学習指導要領でもキーワードの一つになっていますが、つつい個人々の資質・能力や意欲のせいにしがちという癖があるのではないかということ、最近すごく感じています。

例えば、これは子どもに対しても大人に対しても一緒ですが、学力テストの結果があまり芳しくない子や学校があったときに、それはその子の意欲が低いからだ、と先生が思ったり、私たちもそう議論したりしがちです。意欲のせいもあるかもしれませんが、実はコ

ロナで家庭環境も大変で、意欲だけのせいにできない背景もあるかもしれないなど、そんなことも考えなくてははいけません。

また、私の専門の働き方改革や先生方の多忙の問題については、よく教職員の意識改革が必要だ、と言われます。それが当たっている部分もありますけれども、意識のせいだけではない問題もたくさんあるのです。制度とか、仕組みとか、あるいは組織的な問題とか、個人に還元できない問題があるので、個人主義的な考え方だけではなく、組織的な問題や、もっと行政的に手当てしなければいけないこともあるということ、ぜひとも考えていただきたいです。

つつい教育の分野は、個々人のガンバリズムというか、「とにかく頑張れ」という感じで行きがちなところがあるので、ぜひこの計画を参考にしながら予算をしっかりと取りながら、しかるべき施策、事業を考えていただきたいと思っています。

3点目は、若干矛盾するようなことも申し上げますが、教育委員会や学校等に頼るのではなく、一人一人が当事者になっていく、リーダーシップを発揮していくということも同時に考えなくてははいけないと、あらためて感じました。

例えば、計画書の22ページを見ると、1日の睡眠時間が6時間未満の児童生徒は中学生では1割くらいです。個人差はありますが、6時間未満だと普通、睡眠不足です。これは教育委員会や学校だけが頑張っても限界があります。主には家庭の話です。家庭でも気を付けなければいけないこと、例えば子どもの睡眠不足とうつの傾向などは関連しているというようなデータは、おそらく一般の保護者の方は知りません。そういうことも含めて、各家庭や地域ができることを働きかけられる市の行政であってほしいと思いますし、それも、一人一人が主役になっていくということだと思えます。

今後も横須賀では人口減少と少子化が続きますので、行政にお願いばかりでは限界があるのは明らかですから、そういったこともしっかり考えていけると良いなど、自分自身へのメッセージも込めて申し上げたいと思います。以上の3点です。よろしく願いいたします。

(小林委員長)

私は、横須賀市の教育に関わらせていただいてもう20年余りになるかと思えます。

普段は授業研究という領域が専門ですので、各学校現場にお邪魔して、現場の先生方と子どもたち一人一人を大切にする教育、それを具現化する授業はどうあるべきかということを考えていますが、市の方からいろいろと機会を与您していただきまして、現行の教育振興基本計画の策定検討委員会でも、委員を務めさせていただきました。

今回、次期計画の策定に当たり、もう一度お役目をいただきました。2回目ですし、他に適任の方がいらっしゃるのではないかとということで、一度事務局の方にお返ししたこともありましたが、今日この日を迎えて、正直ほっとしたと同時に、やって良かったと思っています。

まず、委員の皆さまと出会えたということです。ここまでやってこられたのは、委員の皆さまが本当に気持ち良く、しかも、しっかりとご自身の意見を明確に述べていただき、

そこには良い意味で多様なもの、ときには対立点も出てきたと思いますが、これをしっかりと皆さま方が乗り越えながら一致点を見出していくという、そのプロセスを皆さん方自身が作っていかれました。私はただここでゆっくと皆さんの意見を勉強しながら聞かせていただきましたけれども、皆さんのご協力があつての賜物だと思います。

それから再三、事務局ご苦労さまという話が出ましたけれども、いろいろな、多面のもので出るほど、事務局としては整理が大変だったと思います。事務局の皆さんに本当に素早く、しかも的確に議論の推移をまとめていただき、次の方向性のたたき台も見事に作っていただきました。それがなかったら今日の日を迎えられなかったに違いないと思います。私もこういうお仕事をさせていただき、事務局の皆さんにもお世話になりましたということと同時に、お疲れさまでしたとお礼申し上げたいと思います。

世の中はコロナ禍ということでもう2年、3年目に入るわけですが、その中で、日本社会全体で、学校教育、社会教育も含めて、教育の必要性ということ、ある意味では嫌というほど分かったと思うのです。特に、学校教育を止めてしまったら、全てが止まってしまう。教育を止めない、授業を止めないということが、皆さん共通の認識になったと思います。

そういう状況の中で、次の教育、学校教育、社会教育全体を通してどのようにしていけば良いかという近未来についての見通しを立て、準備をしっかりとしていくという検討を止めなかった、リモートでもしっかりと会を重ねてきたということ、このことも本当に良かったなと思います。最後にこうして対面でできたということも、いよいよコロナ禍も少しずつ、きっと乗り越えられるという兆しではないかと、そんなふうに私自身も受け止めています。

皆さんの感想にもありましたが、こういう一つの大きな基本の計画ですから、妹尾委員もおっしゃっていましたが、私なりの表現で言うと、どうしても主語が大きいのです。ですから、この大きな主語を使って、私たち自身で検討したこの基本の方針、柱、これが今度は実際に計画を実施していく現場の中で、どういう小さな主語が生まれるか。そういう、まさに大人も子どもも、現場の中に生まれる小さな主語、この声をどのように丁寧に聴いていくか。そして、そこにいろいろな意味での反省材料を私たち自身が見出さなければいけませんし、それに応えていくためにこの計画があるのではないかと思います。

計画を実施し、それを評価し、その評価についてどのように反省し、生かしていくかというこのプロセスを丁寧に、事務局を中心にしっかりと積み上げていただき、私たちが一番意見を重ねしっかりと作ってきたこの「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」という語順や、「好き」という言葉に込めた私たちなりの願いが、この横須賀市内の一人一人の市民、子どもたちに実現していくことを、私自身も強く願っています。

ふつつかな議事進行であったと思いますが、委員の皆さまにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(教育総務部・佐々木部長)

委員の皆さま、5回の会議にわたってのご議論、また、作業部会や文書による意見照会

など、さまざまな形で計画の策定にお力添えいただき、本当にありがとうございました。

対面での会議が難しい状況が続きましたが、いつも活発に、前向きに発言していただいたことに、深く感謝いたします。

特に、目指す教育の姿を作り上げる過程では、皆さまの思いや考えを熱く語り合ってくださいました。検討委員会での議論が、教育フォーラムとともに、この計画のベースとなっています。

計画の策定に当たり、教育長以下、私たちは「目指す姿は、行政が用意するのではなく、ゼロから市民の皆さまと話し合い、作り上げる。」ということを目指していましたが、皆さまのおかげで、その目標も、あと少しで達成できるという状況にあります。

もちろん、計画を作っただけでは意味がありませんので、横須賀の目指す教育の姿の実現のため、教育振興基本計画を推進していく所存です。教育委員会、学校、家庭、地域が一体となって取り組んでいきたいと思っていますので、今後とも、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上で第5回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。